

災害に備えて



清里町では人命にかかわる災害などが起きた記録はほとんどありません。しかし、大地震や記録的な大雨、ゲリラ豪雨、台風や竜巻などの異常気象がテレビ等でも連日報道され、今までに経験したことのない状況がいつやってくるかわかりません。

災害に対する備えを万全に行っても回避することはできませんが、被害を最小限に抑えることはできます。また、防災・災害対策を進める上で、自ら身を守る「自助」、地域の住民やボランティアによる「共助」、国や町が行う「公助」の3つをバランスよく整備していくことが重要となりますが、特に災害発生直後に自分の命を守るのは「公助」でも「共助」でもなく「自助」が一番重要となります。もう一度自分の周りの防災を確認してみてください。

一人一人の取り組み（自助） 災害全般に対する備え

どのような災害でも状況が悪くなってきた場合には、自宅からの避難が必要となります。

実際に避難をする場合には1分1秒を争う事態となつていきますので、普段から避難に必要なものをまとめておく必要があります。

ます。

風水害に対する備え

風水害は多くの場合、事前に情報を得ることができません。まずはテレビやラジオ、インターネットなどで最新の気象情報に注意しましょう。

家の中は、浸水に備えて貴重品や衣類、寝具などを高いところに移したりすることが必要です。家の外は、強風に備えて家の外に飛ばされるものがないか、庭木やアンテナが取れかかっていないか、折れかかっていないかなどを確認してください。

地震に対する備え

地震による被害で多いのが倒れた家具等の下敷きになるケースです。

そのため、家具等が倒れないようにする対策が重要になります。

地震はいつ起きるかわかりません。起きている時間に発生した地震であれば、逃げることも可能かもしれませんが、寝ている間に発生した地震では逃げ遅れることもありますので、自分が寝ている周りには倒れやすいもの落ちてきやすいものをできるだけ置かないようしてください。

自治会等の取り組み（共助）

平成16年12月に町と自治会連合会で「災害時における高齢者等の災害弱者に対する支援協力に関する協定書」を締結しています。これは自治会に対して災害に関する情報の提供を迅速に行うこと、また安否確認や初動時の避難誘導等について自治会の協力を求めることなどが記載されています。また、自治会内でも災害に対する意識が高くなつてきており、自治会単位で「自主防災組織」を結成し、安否確認等の体制を整えている自治会もあります。

町の取り組み（公助）

町では昨年からメール配信システムを整備し「お知らせメール@きよさと」として気象などの情報について登録者に配信しています。また、避難所等が必要な備品、非常食についても順次整備を行っています。なお、町内の避難所等については、別紙「防災のしおり」にて確認してください。